

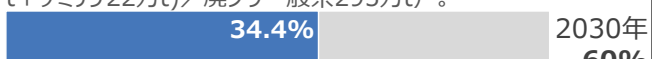
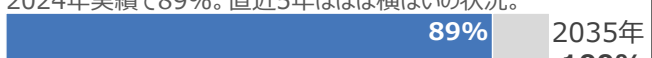
TF3：再生プラスチック・バイオプラスチックの価値創出タスクフォース

本タスクフォースについて

令和8年9月29日

プラスチック資源循環戦略に関する進捗（合同会議資料）

- プラスチック資源循環戦略のマイルストーンについて、現時点で把握できるデータを基に進捗を整理した結果、進展が見られる項目がある一方、とりわけリユース・リサイクル、再生利用及びバイオマスプラスチック導入に関するマイルストーンについては、更なる施策の強化が求められる。

区分	マイルストーン	参照データ例
リデュース	2030年までにワンウェイプラスチック（容器包装等）を累積25%排出抑制 【今回の確認方法】容器包装等の排出量の累積削減率。循環型社会形成推進基本法が制定された2000年と比較して、同年からの削減割合で評価する。一般社団法人プラスチック循環利用協会（プラ循協）のデータを基に算出。	プラ容器包装 ⇒20.2%（2024年） 【現状】プラ循協データでは、包装・容器/コンテナ類の排出量は2000年451万t→2024年360万tで20.2%削減。 
リユース・リサイクル	2025年までに製品デザインをリユース・リサイクル（難しい場合は熱回収）可能に 【確認方法】製品デザインに関するアンケート調査による把握。2024年度までに環境省・経産省のヒアリング調査で9業界がガイドライン策定済。環境省・経済産業省連名で業界団体（56団体／送付先1266社）へ実施。（回答期間：2025年6月～7月）	対応事業者の割合（n=361、2025年）⇒87% 【現状】有効回答361社をn値として、リユース・リサイクル（難しい場合は熱回収）可能とした事業者は87%。 
	2030年までに容器包装の6割をリユース・リサイクル 【確認方法】容器包装等のリサイクル率（%）。プラ製容器包装のリサイクル率を算出。	プラ容器包装リサイクル率⇒34.4%（2024年） 【現状】プラ循協データで2024年実績は34.4%（（マテリアル76万t＋ケミカル22万t）／廃プラ一般系295万t）。 
	2035年までに使用済プラスチックを100%リユース・リサイクル等により、有効利用 【確認方法】使用済プラスチックのリサイクル等による有効利用率（%）。埋立・単純焼却を除く有効利用率を算出・評価。	プラ全体⇒89%（2024年） 【現状】プラ循協データで埋立・単純焼却を除く有効利用率は2024年実績で89%。直近5年はほぼ横ばいの状況。 
再生利用・バイオマス	2030年までに再生利用を倍増（2030年度：10%） 【確認方法】再生材利用率＝（再生樹脂投入量）／（国内樹脂製品消費量＋加工ロス量）。2016年実績5%を基に、その倍を目安として該年度の算出・評価をする。	再生利用率⇒4.6%（2024年） 【現状】プラ循協データでは2016年実績は5%、これを倍増とすると10%。2024年実績は4.6%にとどまる。 
	2030年までにバイオマスプラスチック類を約200万t導入 【確認方法】バイオプラスチック類の製品重量（万トン）。温暖化対策計画での進捗確認。一般社団法人日本有機資源協会及び日本バイオプラスチック協会データを基に算出。	導入量⇒21万t（2024年） 【現状】2023年実績は17.7万t。2019～2023年の4年間で約10万t増の21万トンにとどまる。 

マイルストーン達成に向けた主要課題とタスクフォース (合同会議資料)

- プラ戦略の進捗状況を踏まえ、今後の課題領域として、「設計」「排出・回収・処理」「需要・価値創出」の3つの柱に集約。
- 各課題に対応する3つのタスクフォースを設置し、他の制度・プラットフォームで検討されている内容と重複・齟齬がないような検討事項を設定し、重点的な検討を行うこととしたい。

	マイルストーン		課題領域	TF	主な検討事項
MS ①	2030年までにワンウェイプラスチック（容器包装等）を累積25%排出抑制	→	設計	TF 1 持続可能な 容器包装设计	・循環性設計の在り方の検討 ・リサイクル阻害要因となる素材・成分・形態の整理 ・循環性設計の普及・高度化方策の検討
MS ②	2025年までに製品デザインをリユース・リサイクル可能 事業者100%				
MS ③	2030年までに容器包装の6割をリユース・リサイクル	→	排出・回収・処理	TF 2 プラスチック 資源徹底回収・サプライチェーンの最適化	・プラ資源の回収量拡大 ・リサイクルポテンシャルの高い製品類型・業態の整理 ・回収・選別・リサイクルのシステム高度化に向けた課題整理 ・優良事例の整理・横展開方策
MS ④	2035年までに使用済プラスチックを100%有効利用				
MS ⑤	2030年までに再生利用を倍増	→	需要・価値創出	TF 3 再生・バイオプラスチックの価値創出	・再生材・バイオプラの利用拡大に向けた検討 ・環境価値の見える化（GHG削減効果の評価手法の整理、クレジット化等の価値創出方策の検討） ・マスバランス方式等による価値表示の在り方の整理 ・プラスチック資源循環の進捗を評価する指標及びモニタリング手法の検討
MS ⑥	2030年までにバイオマスプラスチック類を約200万t導入				

TF3（再生プラ・バイオプラの価値創出）の目的・方針

＜本タスクフォースの目的＞

- プラスチック資源循環戦略の策定以降、再生プラスチック・バイオマスプラスチック※については、プラスチック資源循環促進法に基づく設計認定制度やグリーン購入法等により、導入を進めてきたところ。
- しかしながら、再生プラスチック・バイオプラスチックは導入が伸び悩んでおり、要因として、既存の石油由来プラスチックとの価格差が大きいことが挙げられ、価格差を埋める施策が必要である。
- また、昨今はマスバランス方式を活用して価値訴求をするプラスチック製品が出てきているが、マスバランス方式に対する評価が定まっていないことや、その仕組みと理解の難しさから採用が伸び悩んでいる状況。
- 2019年以降の環境変化を踏まえ、2050年ネット・ゼロの実現とともに資源安全保障・産業競争力の強化に向け、再生プラスチックとバイオマスプラスチックを両輪として国内で戦略的に推進するために、その導入状況や資源循環の進捗を網羅的に把握・管理していくことが重要である。

● TF3（再生プラ・バイオプラの価値創出タスクフォース）の目指す方針

- 石油由来のプラスチックに比べて**価格の高い再生プラスチックやバイオプラスチックについて、値差を縮小すべく、再生プラスチックやバイオプラスチックによる温室効果ガス削減効果のクレジット化、マスバランス方式による価値表示の在り方等について整理を行う。**
- 今後のプラスチック資源循環の**進捗を評価するモニタリング方法の検討や、指標・マイルストーンの更新（目標年次の更新と目標深堀等）を行う。**合わせて、**中長期の再生プラスチック・バイオプラスチックの導入見通しを整理する。**

TF3：今年度TF3におけるアジェンダ案

■ 今年度のTF3では、主に以下の内容を想定している。

TF3 開催回	アジェンダ項目	得られる示唆
第1回（9月） 価値創出における 課題・施策の検討	● TF3について ➢ TF3の背景・位置づけと、目標及び今後の進め方	・ 本年度のTF3の目標、進め方
	● 再生プラ・バイオプラの価値創出に向けた検討・整理 ➢ 再生プラ・バイオプラの価値創出策の検討 － ボランタリークレジットの活用状況 － カーボンクレジットの活用に向けた検討 ➢ 関係者理解を通じた価値創出策の検討 － マスバランス方式の必要性・意義の整理	・ 価値創出に向けた課題の認識共有 ・ 価値創出に向けた追加施策の補足
	● プラスチック資源循環の進捗を評価する指標及びモニタリング手法の検討 ➢ 既存の各種指標・データの整理 ➢ 追加的に必要なデータの検討	・ 国内循環の現状把握 ・ 整理結果を踏まえた追加的なデータ収集の検討
	● 今後のTF3の方針	・ 検討・ヒアリング実施方針の確認
第2回（2月頃） 価値創出に向けた 施策・方針案の検討	● 第1回の振り返り	・ 第1回論点に対する補足・修正意見の聴取
	● 再生プラ・バイオプラの価値創出に向けた検討・整理 ➢ カーボンクレジットの活用に向けた方法論の検討 ➢ マスバランス方式を活用したプラスチックの表示の考え方	・ 検討結果の整理・共有 ・ 価値創出策の列举と認識共有
	● プラスチック資源循環の進捗を評価する指標及びモニタリング手法の検討 ➢ モニタリング手法の検討、指標・マイルストーンの更新の検討 ➢ 中長期シナリオ案たたき台の提示	・ 今後のモニタリング手法や指標更新案の共有 ・ 中長期の再生プラ・バイオプラの導入イメージの共有
	● 次年度以降に向けた方針の提示	・ 課題の整理と改善方法検討の方針提示